

メール himegawa@ac.city.myoko.niigata.jp

HP <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/himega-s/>



学校だより/姫川原小

5月



つなぐ

わたしたちの ぼくたちの たのしい母校 姫川原

二階から元気の歌声が聞こえてくる。日に日にボリュームも上がってきた。校長室に近い三年教室かなーと思いつ、歌声に誘われるように二階に行ってみると、教室に人の気配はない。何と歌声は離れた一年教室からだった。朝の会の時間を決めて集まり校歌の練習をしていたのだ。三人の担任の連携がうれしい。

一年生を二・三年生がはさむように大きな輪になっていた。入学式で、在校生が歌う校歌を初めて聞いた時の表情と大違いである。手をつないでお互い顔を見合って歌っている。平仮名の学習のこの時期。当然、伝え歌い合う形である。一年生にとって、校歌は何のためにあるのかなど、考える必要はない。覚えることが今の目的だ。だから必死になつてキラキラしている目が印象的だった。

一緒に歌うことで仲間入りを果たせた、一体感を体で感じている。この一体感こそ、校歌の役割の一つであろう。昭和三十七年制定の歌詞だが、新鮮な気持ちで歌える。妙高・関川・鳥坂と歴史や地理的要素のある歌詞からも、集い歌うことで、愛郷心や愛校心を育ててきたはずだ。都会に行つた人も、きつと校歌を歌うことで、ふるさとの景色が思い浮かぶだろう。時を経ても口から自然と歌詞が出てくる。世代を超えて一緒に歌える歌。それが校歌だ。

子どもたちの繋いだ手が大きくゆれていく。一・二・一・二、声の大きさと共に手の振りも大きくなつていった。三番まで一気に歌いきる。すると、「今日も一日頑張ろうね」ハイタッチをしながら教室に戻つていった。

高床山は ぼくらの遊び場

なかよし班で全校味噌汁遠足

最高気温二十四度となった十日、学校から高床山森林公園を目標して、全校遠足を実施しました。

学校を出発するときは長袖姿の子どもたちも、最初の休憩地点で脱ぎ始める程、最高の陽気となりました。積雪量が昨年より少なく雪解けが早かったためか、昨年見ることのできたギフ蝶の卵を確認できませんでした。しかし、かろうじて舞うギフ蝶を確認することができた子どもたちもいました。突如現れるギフ蝶に、「あつ！ギフ蝶だ」という声が出た時には、素早く姿を消してしまい、あの素早さにびっくりでした。

芽吹きから早くも新緑の美しさを放つ高床山は、子どもたちの目も気持ちもすっかり充電してくれた最高の一日となりました。



のぼりの途中で残雪を発見。予想外の暑さに、雪で涼をとるとは5月に考えられたのでしょうか。雪を指でかき集め、握りしめ、冷たくなると、友達に手渡ししながら歩いていきました。



久保田からの山道は杉林の中、それまで一列に歩いてきた子どもたちが縦横無尽に広がり始めました。道すべてが自分たちだけの世界となり、急ににぎやかに。コンクリート社会に慣れ過ぎると、この砂利道や山道が足底に気持ちの良いこと。入学したての一年生は、根を上げずに最後まで頑張って完歩しました。

楽しみの昼食に向け、なかよし班毎に豚汁作りです。火おこしと豚汁グループと、二手に分かれると、一年生も要を得た様子、グループの中で活躍している姿に感心しました。各班のこだわりは、コーン入り、にんにく入り、サツマイモ入りと、各家の味噌がブレンドされ、これまたおいしい豚汁の完成です。自分の班が最高の味だと自負し、全鍋完食でした。お椀をもって各班の味見に行く姿も現れました。

後半に学級ごとの活動時間を設定した今年は、各学年の発達段階に合わせた特徴ある活動となりました。高床山をベースに総合的な学習をする四年生は、ギフ蝶を守る看板付けに鳥坂城跡まで足を伸ばしました。五年生は高床山の自然を生かしたネイチャージムを、六年生は環境保全を目指しゴミ拾いに汗を流しました。低学年は野山の散策を十分に味わい、展望台からは学校にむかって、お留守番の先生に大きな声で呼びかけていました。それぞれの形で高床山を満喫した一日となりました。



地域に飛び出して

神社にまつわる話題



四月のことですが、四年生は社会

科の学習の一環で、八幡神社の春季祭礼を見学しました。神楽奉納を初めて見た子どもも多く、滑稽な鯛釣り舞では、釣り竿をならすやり取りを教えてもらったり、獅子舞では頭をかんでもらったり、地域の方々が祭事を大切にする思いにふれた学習となりました。

5月8日は、川上の薬師様のお祭りでした。天気にも恵まれ、2・3年生が地域探検として出かけました。昭和50年代のPTA会長さんや地域の方から川上地区の貴重なお話を伺うことができました。姫川原は、ひめではなく、「へめがわら」と呼んだことが印象的だったのでしょうか。帰ってきてからすぐ報告に来てくれました。

また、「神社にはなぜ杉の木が多いのか」という子どもの質問に地域の方が感心し、翌日学校を訪ねて下さいました。古来、神は杉の木を介して天上界と地上界を行き来していたことを知り、地域からたくさんのことを学ぶ機会となりました。

閉校特集 ～思い出の品に想いを寄せて～ その1

学校の中にある懐かしいものを紹介していくコーナーを今回から作りました。この記事をお読みになって、それにまつわる出来事や思い出話をどうぞ学校にお寄せ下さい。またいつでも学校にお寄りになって見に来ていただいたりお話に来たりして下さい。お待ちしております。



第38回卒業生制作です。今は西階段の踊り場に飾られています。40歳位になられた方たちでしょうか。当時の勢いが30年近くたっても伝わってきます。